



となん

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

【学校教育目標】

[知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒

[徳] 豊かな心を持つ生徒

[体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

発行者：校長 崎山 用彰



☆「QRコード」はデンソーウェブの
登録商標です(下地中学校HPへ)

9/13(日)「第79回運動会」を終えて

「飛躍一閃」が輝いた一日

9/13(日)「下地中学校『第79回運動会』」が、多くの保護者や地域の皆様のご声援に支えられ、盛会のうちに終了いたしました。



当日は天候にも恵まれ、生徒たちは競技や演技、応援、係活動に全力で取り組み、「飛躍一閃 ～全力を尽くし、光を放て!!～」のスローガンにふさわしい姿を見せてくれました。まずは、生徒の皆さんに心からの拍手を送りたいと思います。



運動会では、順位や勝敗に注目が集まります。しかし、本当に価値があるのは、当日までの準備や練習の過程で一人一人が見せてくれた努力や成長です。合同練習の時間や放課後に仲間と声を掛け合い

ながら動きや隊形を確認する姿、思うようにいかなくても何度も挑戦する姿など、多くの場面で皆さんの真剣な姿を見ることができました。時には練習がうまく進まなかったり、意見がぶつかったりすることもあったと思います。しかし、その一つ一つを乗り越えながら仲間と協力し、よりよいものを創り上げようと努力する姿から、大きな成長を感じることができました。

運動会当日も、生



徒たちの輝きは競技だけではありませんでした。友達の活躍に惜しめない拍手を送る姿、転んだ仲間に手を差し伸べる姿、自分の出番ではなくても大きな声

で応援する姿、係活動に責任をもって取り組む姿など、たくさんの「光」が運動場いっぱいにあふれていました。その光

は、速く走ることや勝利することだけでなく、仲間を思いやる優しさや責任感、最後まであきらめない強い心の中にも確かに輝いていました。

また、今年は軽食タイムを導入し、「PTA特技」や「同窓リレー」の復活も果たすことができました。生徒・保護者・地域・卒業生が一緒になって運動会を盛り上げる姿は、下地中学校の大きな魅力であり、地域に支えられている学校であることを改めて実感する機会となりました。ご協力いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

運動会は終わりましたが、ここで培った団結力や挑戦する気持ちは、これからの学校生活でも必ず皆さんの力になります。今回の経験を自信につなげ、新たな目標に向かってさらに飛躍してくれることを期待しています。運動会の振り返りにも、「全力を出し切った」「やり切った」という言葉があふれていました。その成長こそが、「第79回運動会」の何よりの成果です。

全校生徒の皆さん、本当にお疲れさまでした。そして、たくさんの感動をありがとうございました。





となん

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

**よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成**

【学校教育目標】

[知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒

[徳] 豊かな心を持つ生徒

[体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

発行者：校長 崎山 用彰



☆「QRコード」はデンソーウェブの
登録商標です(下地中学校HPへ)

9/5(土)「第61次 本土派遣豆記者体験・
取材報告会」丸田青葉さんが堂々と報告

広がる視野と私の未来

9/5(土)、「第61次 本土派遣豆記者体験・
取材報告会」が宮古島市役所で行われ、本校から豆
記者として派遣された丸田青葉さん(2年)が、堂
々と報告を行いました。

今回は、青葉さんがまとめた作文「広がる視野と
私の未来」を紹介します。

広がる視野と私の未来

下地中学校2年 丸田 青葉

豆記者として過ごした5日間で、私は新しいことへ挑戦
することの大切さを学びました。



昔から私は、新しいこと、やったことがない
ことに対して、知らずに深く恐怖心を抱き、
時にはやりたくないと思いを流しながら拒絶し
たこともありました。失敗して、笑われなくな
ったからです。中学生になっても、何かを成
し遂げるという経験もなく、ただ、時を過ごしてきただけです。

そんな私に、「何か新しいことに挑戦してみたい」と勇気
づけてくれた言葉と出会いました。

「ほとんどの人は、本に書かれている
教えを真似しようとは思わない」

この言葉は、吉田松陰の言葉で
す。この言葉が私の心に深く刺さり、
なぜだか「時間がない」と思うようにな
りました。なぜなら、何度も何度も、
「小さいうちに何でもやってみないと、
大人になってから後悔する」

そう聞いてきましたが、過去を振り返ってみると、言葉の通り、
私は話を聞いて何か行動を起こしたことは一度もありません
でした。

それから数日、母から、「豆記者に応募しないか」と言
われましたが、一度、将来記者になる予定はないと言って
断ってしまいました。ですが、ふとあの言葉を思い出して、「将
来のことは経験することを拒む理由になるのか」と考え直し



豆記者への応募を決意しました。



東京へ着いてからは、世田谷区教育長
への取材や首相官邸での表敬、佳子様
との御接見など、普通に生きていたらできな
いことをたくさん経験することができました。時
には緊張することもありましたが、とても楽しか
ったです。

その中で、東京在住の沖縄県出身大
学生との懇談会有り、私は二人の大学生に、「新しいこと
に挑戦するための勇気の出し方」について質問をしました。
大学生からは、

「勇気というよりは、『面白そう』などの軽い気持ち、好奇心で
動いてみると、緊張よりも楽しさが勝つと思う」や、
「自分を自ら忙しい場に置くことで、不安などの気持ちを感じ
る暇もなくなる」などのアドバイスをもらうことができました。沖
縄から東京という全く違う場所で、新しい生活をしてきた方か
ら実体験を聞くことができ、わくわくして楽しさもあり、心強く感じ
ました。

この豆記者で経験した様々なことが、これから緊張したと
き、新しいことに挑戦してみたくなくなったときに、「大丈夫」とささや
いてくれる、私にとってのお守りになってくれたと思います。この、
たった数日間の経験が、私の決断や視野を広げてくれたと
考えると、本当に豆記者に応募して、挑戦してみて、良かった
と思いました。

これからは、新しいことに挑戦することを恐れず、「まずは、
やってみよう」という気持ちを忘れないようにしたいです。私の
輝く未来のために。

◎青葉さんの作文には、新しいことへの不安を乗り越え、自ら挑戦することで視野を広げていく成長の姿
が生き生きと描かれています。本土派遣豆記者とし
ての取材や交流を通して得た学びを、自分の言葉で
深く振り返り、
「まずはやっ
てみよう」という
前向きな決意に
つながっている点
が印象に残りま
した。



9/5(土)「第41回 沖縄県少年の主張宮古地区大会」奥平絢音さん「優秀賞」に輝く！

指先一つに思いを込めて

9/5(土)、「第41回 沖縄県少年の主張宮古地区大会」が未来創造センターで行われ、本校代表の奥平絢音さん(3年)が見事「優秀賞」に輝きました。

今回は、絢音さんの発表した作文「指先一つに思いを込めて」を紹介します。

指先一つに思いを込めて

下地中学校3年 奥平 絢音

「いいね」「爆笑」「残念」。スタンプ一つで返事ができ、「いいね」を押せば共感を示すことができる。そんな指先一つのアクションだけで、自分の気持ちを伝えられる時代を、私たちは生きています。最近では、AIが返信文まで考えてくれるようになり、人とのやり取りが気軽に便利になりました。しかし、その手軽さの裏で、私たちは画面の向こう側にあるものを忘れてはいないでしょうか。



2024年に、SNSを利用している人を対象にしたアンケートで、十代の約半数は「SNSで気軽に本音が言える」と回答しています。そして、「発信内容がトラブルにならないか考えるのは面倒くさい」という回答は七割でした。私も以前、自分が言いたいことより、相手がどう思うかを考えすぎて、疲れてしまった時期がありました。友達と話す時もSNS上でも、「この言い方で傷つかないかな」「冷たい人だと思われなかな」そんなことを毎日のように考え、何度も返信を入力しては削除することを繰り返し、正直面倒くさいと思うこともありました。

ある日、SNSを見ていた時のことです。数秒の動画や一枚の画像に、アンチコメントが書き込まれていました。人と人を繋ぎ思いを発信する場であるはずが、そこには少しの思いやりもありませんでした。その時、気付きました。私は画面に映っていないものを考えていたのです。たった数秒の動画を撮るために何度も撮影をやり直したかもしれないこと。何時間も費やしたかもしれないこと。自分の本音を気軽に伝えられるようになった反面、相手を思いやることを「面倒だ」と思ってよいのでしょうか。私たちが考えるべきなのは、画面の向こう側への思いやりです。そして、私たち一人一人もまた、誰かにとっての「画面の向こう側の人」なのです。



実際、後先考えずに投稿したり、言葉のすれ違いでトラブルになったりと、私たちの周りでもSNS上の問題は後を絶ちません。単に「繋がる」と、心で「通じ合う」ことは別物です。見えない「思い」を見ようとする時間にこそ、人間同士の本当のコミュニケーションがあるのではないのでしょうか。誰とでも簡単に繋がれる便利な時代だからこそ、画面の向こう側にいる相手を、私たちはこれまで以上に思いやる必要があると思います。

もちろん、意見がぶつかることや違う意見があることは悪いことではないと思います。学校の話合い活動でも、自分と違う意見はもちろんあります。しかし、互いに意見を伝え合うからこそ、よりよい考えにたどり着けます。もし、「面倒くさい」と自分の意見を伝えなかったら、相手の話を聞けなかったら、絶対にその気付きは生まれません。

情報技術はこれからも発達し、ますます便利な時代になっていくでしょう。しかし、便利さに頼るあまり、「他者を思いやる時間」まで手放してはいけないと思います。指先一つのアクションで気持ちを伝えられる時代だからこそ、私はあえて立ち止まりたい。便利さが、私たちの「伝え合う力」を奪うのではありません。私たちが技術をより良く活用し、「伝え合う力」を育てるのです。相手の努力や背景、表情や感情まで想像し、自分の言葉で思いを紡ぐ。これは、人間だけに与えられたかけがえのない特権です。

手軽に言葉を交わせる現代社会だからこそ、私は自分の思いを伝え、相手の思いを受け取るまでの時間を大切にしていきたいです。それが、人間にしか生み出せない「思いやり」であり、コミュニケーションの原点です。目に映るものだけでなく、その向こう側にあるものまで想像を巡らせる。その時間が、私たちの心に温かな火を灯し、人と人をつなげているのだから。

◎ SNSやAIが当たり前になった今の時代に、とても大切なことを教えてくれる作品です。相手の顔が見えないやり取りでも、その向こうには気持ちをもった人がいることや、相手を思いやることの大切さが、自分の経験をもとに分かりやすく書かれています。便利な道具が増えても、他者を大切に作る心や、自分の言葉で思いや考えを伝える力はなくしてはいけません。この作文は、私たち一人ひとりが、相手の立場を考えながら行動することの大切さを気付かせてくれる、素晴らしい作品です。



9/13(日)「第79回運動会」を終えて 「飛躍一閃」が輝いた一日

ここからは、画像を中心に掲載します。



全女子による
リズムダンス



伝統芸能①
与那覇のヨンシー



伝統芸能②
川満の棒踊り



障害物リレー



3年生
特技



【お知らせ】

☆運動会「閉会式」で表彰を行いました。各賞の受賞者はこちら。

☆「飛躍一閃」賞 3年A組

☆「崎山用彰」賞 3年B組

☆学級MVP賞(各学級1名)

1A:	本田	高正
1B:	友利	光李
2A:	友利	新太郎
3A:	奥平	絢音
3B:	藤原	琉太郎



☆過去2年間の運動会は「ゲリラ豪雨」で体育館に移動する事態になりましたが、今年は大丈夫でした。暑い中、大変お疲れ様でした。



となん

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

【学校教育目標】

[知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒

[徳] 豊かな心を持つ生徒

[体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

発行者：校長 崎山 用彰



☆「QRコード」はデンソーウェブの
登録商標です(下地中学校HPへ)

9/18(金) 6校時

『台湾国際交流報告会』

運動会の余韻も残る9/18(金)、6校時に多目的教室(1・2年生)、3年生は各教室(オンライン)で、「台湾国際交流報告会」を行いました。



参加生徒による報告では、7月の受け入れ、8月の台湾訪問を、写真やクイズを交えながら分かりやすく紹介されました。交流の楽しさや学んだことが伝わる、工夫あふれる発表となりました。

次に、保護者代表で交流に参加した村吉ひかりさんがあいさつを行いました。「交流が始まる前は、うまくなじめるかどうか不安もあったが、その心配はすぐなくなった。みなさんに覚えていてほしいことは、この交流が27年もの



長きに渡って続いていること、その背景には、羽地芳子さんをはじめ、下地中・漢口中の先生方、ホス

トファミリー、その他多くの関係者による支援がある。3年後には30周年を迎える。この素晴らしい縁を大切にし、次の世代につないでいってほしい」と話されました。

最後に、通訳として長年交流を支えてくださっている羽地芳子さんのあいさつがありました。「今年で27年目、22回目の台湾訪問では、これまで経験したことのない出来事もあった。健康管理や、ホテルでの過ごし方、パスポートや貴重品の管理など、一人一人がより高い意識をもつ必要がある。もっと細心の注意を払うべきだ。また、今回実現した基隆市訪問では、強歩大会Tシャツ寄贈のお礼だけでなく、姉妹都市で



ある宮古島市代表としての自覚や責任のある行動が求められる。下地中学校だけでこの国際交流が継続できていることへの感謝を忘れず、普段の生活から努力を積み重ねてほしい」と、愛情のこもった叱咤激励をいただきました。

今回の報告会では、参加生徒の発表から、交流を通して語学力だけでなく、自ら考え行動する力や異文化を理解する姿勢が大きく成長していると感じました。一方で、芳子さんがおっしゃっているように、国際交流は多くの方々の支援により成り立っています。感謝の気持ちを忘れず、自分たちが下地中学校や宮古島市の代表であるという自覚を持って行動することが大切になります。この貴重な交流の歴史を受け継ぎ、さらに発展させてくれることに期待しています。

次年度の台湾国際交流は、「台湾訪問のみ」となります(漢口国民中學からの訪問が2年に1度のため)。そして日程は、令和9年8月1週目を予定しているそうです(今回よりも1週早くなります)。1・2年生で交流への参加を考えている人は、保護者と相談をしておきましょう。



9/18(金)教育実習最終日

友利なの先生 ありがとう

8/31(月)から3週間、教育実習を行っていた友利なの先生が9/18(金)、最終日を迎えました。台湾国際交流報告会に引き続き、なの先生の



お別れ会を行いました。

2年生の津波璃音さん・仲地愛良さん・丸田青葉さんから「お礼の言葉」、1年生の上地沙奈さん・2年生の砂川琉空さんから「記念品贈呈」、生徒会長の友利伸之介さんから「花束の贈呈」を行いました。友利なの先生、3週間の教育実習、大変お疲れ様でした！

【お知らせ】

☆「シルバーウィーク」期間中の出来事を2つ紹介します。

①「第22回中学校秋季ハンドボール大会」に3年男子が出場。準優勝に輝きました！



② 宮古の里「クイチャー祭り」に下地クイチャー保存会が参加しました。



☆右の記事は、「沖縄タイムス(九月九日)」に掲載された記事です。
一家団らんの話題にどうぞ。

順位	科学的活用力	読解力	数学的活用力
1	(-) 北京・上海・江蘇・浙江 597点	(1) シンガポール 535点	(-) 北京・上海・江蘇・浙江 612点
2	(1) シンガポール 560	(-) 北京・上海・江蘇・浙江 527	(1) シンガポール 563
3	(3) マカオ 541	(5) 台湾 508	(2) マカオ 549
4	(4) 台湾 540	(3) 日本 503	(3) 台湾 546
5	(2) 日本 538	(7) マカオ 501	(5) 日本 525
	OECD平均 482	OECD平均 461	OECD平均 463

※()は前回順位。は前回不参加
平均得点の国際比較 (PISA)
平均点で見ると、日本はOECD平均より約100点高い。科学的活用力はOECD平均より約100点高い。読解力はOECD平均より約50点高い。数学的活用力はOECD平均より約50点高い。

読解力平均点が低下

日本は科学が前回22年調査の2位から5位に低下、読解力が3位から4位に、数学が前回と同じ5位だった。各国が平均点を下げた影響で、OECD加盟38カ国に限った順位では00年の調査開始から初めて3分野で1位となった。

読解力が13点減の503点で、統計的に有意に低下したと分析。比較的高い文章を読ませる問題は前回と同程度の成績だったもの

日本の学力水準維持
OECD調査 国内格差は拡大

経済協力開発機構(OECD)は8日、91カ国・地域の15歳を対象に2025年に実施した学習到達度調査(PISA)の結果を公表した。高校1年が参加した日本は、知識を使い課題解決につなげる力を見る科学的活用力、読解力、数学的応用力の3分野でいずれも上位を維持した。ただ、習熟度が最も低い層の割合が増加し、高得点層との差が拡大。読解力は平均点の低下が目立った。文部科学省は結果を分析し、現在中教審で議論が進む学習指導要領の改定に反映させる方針。

平日の余暇のSNS閲覧時間(1日当たり)



学習到達度調査(PISA)では、平日の余暇で交流サイト(SNS)を閲覧する時間が日本は平均2.3時間で、経済協力開発機構(OECD)加盟で回答した24カ国のうち、最も少なかった。OECD平均は2.8時間だった。学校の勉強で人工知能(AI)を利用している頻度も加盟国の中で最少だった。日本の平日1日のSNS閲覧は「7時間より多い」が4.5%(OECD平均は5.7時間)、「5〜7時間」5.9%(同9.4%)、「3〜5時間」18.7%(同23.5%)、「1〜3時間」10.8%(同9.4%)、「1時間未満」5.5%(同5.5%)。休日は日本23.5%、OECD平均3.1%。1時間で、利用時間の長さは24カ国中20番目だった。学校の勉強にのこる

SNS閲覧2.3時間最少 AI利用も

は読解力が13点減の503点で、統計的に有意に低下したと分析。比較的高い文章を読ませる問題は前回と同程度の成績だったもの

学びの機会 保障必要

京都芸術大の松下佳代教授(教育方法学)の話 OECD平均が2015年以降、低下している中、日本は踏みとどまっている。人工知能(AI)の利用や交流サイト(SNS)の閲覧が比較的小さいことが関係しているかもしれない。ただデジタル化が知性を衰退させるとまでは言えず、慎重な検証が必要だ。一方、3分野全てで低得点層が増えた。家庭環境にかかわらず体験や学びに触れられるよう、学校に加えて地域や自治体の資源を活用し、学びの機会を保障する必要がある。

の、短い文章を速く正確に読む「読みの流ちょう性」が低下した。他2分野も下がり、科学は9点減の538点、数学は11点減の525点だった。前回の有差はなかった。OECD平均は3分野で下がった。今回の調査は科学が重点分野で、化石燃料の代わり分力に電力で発電した場合の環境への利点を説明させる問題などがあつた。学習環境や生徒の意識を高める調査では、学校の勉強で人工知能(AI)を使う頻度がOECD加盟国で最低だった。

AIを活用しているかも質問。学習を助けてもらう場面での利用が「全く、またはほとんどない」としたのはOECD平均20.7%に、日本は43.8%だった。文部科学省は次期学習指導要領でAIに関する学習や効果的な活用を推進する方針。海外では子どものSNS利用を法律で禁止する動きが広がる。オーストラリアは2025年に世界に先駆けて16歳未満のSNS利用を禁止。インドネシアやマレーシアでも今年、アカウンの保有や開設が禁止された。欧州でも法制化を進める動きが出ている。



となん

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

**よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成**

【学校教育目標】

[知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒

[徳] 豊かな心を持つ生徒

[体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

発行者：校長 崎山 用彰



☆「QRコード」はデンソーウェブの
登録商標です(下地中学校HPへ)

天高く馬肥ゆるの候

未来につながる秋にしよう！

みだしの「天高く馬肥ゆるの候」とは、秋のさわやかな気候を祝う季語的あいさつです。意味は、「秋になり空が高く澄みわたり、草がよく育ち馬が太るほど実り豊かな季節」です。



朝夕の涼しさに、秋を感じる今日この頃。今回は、「未来につながる秋にしよう！」と題して、お話をします。

未来につながる秋にしよう！

「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」など、秋にはさまざまな呼び名があります。暑さが和らぎ、何かにじっくり取り組みやすいこの季節は、自分自身を成長させる絶好の機会です。



まずは「スポーツの秋」です。下地中学校では、12月に「強歩大会」が予定されています。強歩大会で自分の力を十分に発揮するためには、本番だけ頑張ればよいわけではありません。日頃から体力づくりや健康管理を意識し、少しずつ体を鍛えていくことが大切です。毎日の運動や規則正しい生活習慣を積み重ねることで、体力だけでなく、最後までやり抜く心の強さも身に付きます。強歩大会に向けた取組を通して、自分自身の成長を実感してほしいと思います。

次に「読書の秋」です。本を読むことは、知識を増やすだけでなく、自分の考えを整理したり、相手に分かりやすく伝えたりする力を育てます。これは本校が重点的に育成している「言語能力」につながります。読書を通して語彙を増やし、多様な考え方に触れることで、皆さんの世界はさらに広がっていく



ことでしょう。

また、「国際交流の秋」も大切です。今年も台湾国際交流事業を通して、多くの生徒が異文化に触れ、貴重な経験を積むことができました。これからの社会では、国や文化の違いを超えて協力する力が求められます。英語の学習をはじめ、相手を理解しようとする姿勢や、多様な価値観を尊重する心を育てることが、本校の目指す「国際性」の向上につながります。



さらに、「将来を考える秋」にもしてほしいと思います。スポーツ、読書、国際交流などの経験は、一見別々の活動のように見えますが、すべて将来の自分づくりにつながっています。自分は何が得意なのか、どのようなことに興味があるのかを知り、将来の夢や目標について考えることは、「キャリアプランニング能力」を高める第一歩です。

このように「実りの秋」とは、作物だけでなく人も大きく成長する季節です。12月の強歩大会に向けて体を鍛えること、本に親しみ言葉を磨くこと、世界に目を向け視野を広げること。その一つ一つの積み重ねが、皆さんの未来を切り拓く力になります。この秋を、自分だけの「成長の秋」にしてほしいと思っています。



【お知らせ】

☆明後日から10月に入ります。

「10月の生活目標」を確認しましょう。

読書で自己を高めよう！

- ◎図書館を積極的に利用しよう
- ◎読書行事や活動に参加しよう
- ◎本を大切に扱うようにしよう



「読書の秋」ということで……

「ヤングタイマーズのお悩み相談室 (石川宏千花)」ブックトーク

先ほどのお話「未来につながる秋にしよう！」で述べた「読書の秋」に因み、久しぶりのブックトークを掲載します。

今回の作品は、「ヤングタイマーズのお悩み相談室(石川宏千花)」です。

今回みなさんにご紹介したい本は、石川宏千花さんの「ヤングタイマーズのお悩み相談室」という本です。

みなさんは今、何か心の中にモヤモヤとした悩みを持っていますか。友達関係でちょっと気まづくなってしまったり、自分にはこれといった特別な個性がないと落ち込んだり、家族の態度にイライラしたり。あるいは、大人たちの理不尽なやり方に腹が立ったり。「周りみんな悩みを抱えて大変そうなのに、自分には大した悩みがない」ということに、どこか居心地の悪さを感じている人もいるかもしれません。

中学生という時期は、心も体も大きく変化する真っ最中です。昨日までは何とも思わなかったことが急に気になり出したり、自分の複雑な気持ちをうまく言葉にできなくて、もどかしい思いをすることが増える時期でもありますよね。今回紹介する本は、まさにそんなみなさんのリアルな心の声を、そっとすくい取ってくれるような物語です。

物語の舞台は、夜のラジオ番組の「お悩み相談コーナー」です。番組パーソナリティを務めるふたりの大人「ヤングタイマーズ」のもとには、日々、中学生たちからさまざまな悩みのメールが届きます。この本には、6人の中学生が登場します。彼ら、彼女らが抱える悩みは、本当にバリエーション豊かです。自分の個性に悩む子、家族との関係に葛藤する子、社会の理不尽さに怒りを覚える子、そして「悩みがないこと」そのものを気に病む子まで様々です。

投稿を読むパーソナリティのふたりは、上から目線で説教をしたり、「こうするのが正解だよ」と教科書通りの答えを押し付けたりはしません。時に真剣に向き合い、時に脱線した雑談を交えながら、ラジオの前のあなたへ語りかけるようにおしゃべりを繰り返します。

ここで少し、この本の素晴らしいところ、みなさんにぜひ知ってほしい魅力についてお話しさせてください。

この物語を描いた石川宏千花さんは、中学生のみなさんの心の揺れ動きを描くのが本当に上手な作家さんです。大人が頭の中で勝手に作った「ありがちな中学生像」ではなく、みなさん一人ひとりが持っている複雑で繊細な感情を、驚くほどリアルにすくい上げてくれます。

この作品を読んでいると、胸に深く刺さるメッセージに出会います。それは、「悩む気持ちには、星みつも星ひとつもない」ということです。

私たちはつい、「あの子の深刻な家庭の悩みに比べたら、自分の悩みなんてちっぽけで恥ずかしいな」とか、「こんなことで悩んでいる自分は幼いんじゃないか」と、悩みにランク付けをしてしまいがちですよ。でも、この本は「どんな

悩みであっても、あなたが今苦しいと感じているなら、それはとても大切に尊重されるべき感情なんだよ」と、優しく寄り添って肯定してくれます。

そして、この「お悩み相談室」のいちばん素敵なのは、悩みを魔法のように一瞬で解決してしまわないことです。現実の悩みって、誰かに一言アドバイスをもらったからといって、次の日にすっきり消えてなくなるものではありませんよね。ラジオのパーソナリティのふたりも、「こうすれば絶対解決する！」なんて決めつけはしません。その代わり、投稿してくれた中学生が自分自身の力で一歩踏み出せるように、あるいは「今のままでもいいんだ」と自分を許せるように、そっと視点を変えるヒントや、温かい言葉を置いていってくれるのです。

また、「ラジオ」という場所が舞台になっているのも、この本の大きな魅力です。SNSのようにすぐに返信が来たり、周りの目が気になったりする世界とは違って、ラジオは「声」を通して、遠くにいる誰かとゆるやかにつながる場所です。面と向かっては恥ずかしくて言えない本音も、ラジオへの投書なら書ける。そして、顔も知らない誰かが自分の悩みを真剣に受け止め、電波に乗せて答えてくれる。この「近すぎず遠すぎない、絶妙な距離感」が、傷つきやすい私たちの心にとって、とても居心地の良い居場所になってくれます。

物語を読んでいるうちに、みなさんは投稿者である6人の中学生の誰かに「あ、これ私と同じだ」と自分を重ね合わせたり、あるいはパーソナリティの言葉に「なるほど、そういう考え方もあるのか」とハッとさせられたりするはず。そして気づくでしょう。自分とは全く違う悩みを抱えている誰かがいて、誰もがそれぞれ異なる理由で迷いながら生きているのだということに。それは、自分以外の人の心を知るといって、とても素敵な体験でもあります。

この本には、すべての悩みがスッキリ解決するような大逆転の爽快感はありません。でも、読み終わったあとには、まるで温かい飲み物を飲んだあとのように、胸の奥がじんわりと温かくなり、肩の力がふっと抜けるような安心感が残ります。

「今、抱えている悩みの解決策が見つからなくて苦しい」という人はもちろん、「なんとなく毎日がモヤモヤする」「友達関係に疲れてしまった」「特に悩みはないけれど、誰かの話を聞いてみたい」という人にも、ぜひ手に取ってほしい一冊です。

ラジオのチャンネルを合わせるような軽い気持ちで、この本のページをめくってみませんか。きっと、あなたの心にそっと寄り添ってくれる温かい言葉に出会えるはずです。



みなさんは「読書記録ノート」を書いていますか？
「掲示物のシール」も増えていくといいですね！